

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,054	t-CO ₂
（温室効果ガス削減換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		3,054

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当たりの排出量	153.2	t-CO ₂ / 千㎡・h	150.1	t-CO ₂ / 千㎡・h	160.1	t-CO ₂ / 千㎡・h		t-CO ₂ / 千㎡・h
削減率（対 基準年度）			2.0 %		▲ 4.5 %		%	
原単位当たりのみなし排出量					151.8	t-CO ₂ / 千㎡・h		t-CO ₂ / 千㎡・h
削減率（対 基準年度）					0.9 %		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

基準年度1423k0に対して6年度1484k0で4.3%増加
 基準年度2933t - CO₂に対して6年度3054t - CO₂で4.1%増加
 電気使用量は直営で前年比1.2%増加テナントで0.5%増加
 空調用ガス使用量は前年比28%増加しました。ガス使用量の増加は夏期が顕著で外気温(酷暑)の影響を大きく受けたと考えられます。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー対策 動力、空調	<ul style="list-style-type: none"> ○空調機器清掃・整備による効率運転。 ○空調温度省エネ設定運転。 ○空調運転のこまめなオン、オフ運転。 ○従業員のエレベーター乗用禁止。 ○インバータ機器の適時導入。 	電気エネルギーを三年間で2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ○チューブ洗浄の実施 ○夏期28℃ 冬期20℃を設定 ○実施 ○実施 ○インバータ設置済
省エネルギー対策 照明・電気	<ul style="list-style-type: none"> ○営業時間外の不要照明の消灯徹底。 ○後方施設の手元スイッチにてのこまめな消灯。 ○照明をLEDに変更 	電気エネルギーを三年間で2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ○実施 ○実施 ○LED化実施済(2018年実施)
省エネルギー対策 都市ガス13A	<ul style="list-style-type: none"> ○空気燃料比の適正管理。 ○余熱の徹底利用。 ○省エネ機能付き機器への適時取替。 ○電気機器への適時切替。 	ガスエネルギーを三年間で2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ○業者の定期メンテナンス実施 ○希釈運転を有効活用 ○未実施 ○未実施
自動車対策	<ul style="list-style-type: none"> ○アイドリングストップ・エコドライブの徹底。 ○余分な荷物をのせずに車体軽量化。 		従業員が取組に意識を持ち、実施している。
廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ○使用済み紙の裏面活用。 ○古紙回収・リサイクル化。 ○リサイクル可能物の分別徹底。 	炭酸ガス換算にて三年間で2%削減	従業員、設備担当者が取組に意識を持ち、実施している。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	23.7	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
k1	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
非化石証書		157 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

157	t-CO ₂
-----	-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

0	日
---	---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- 店舗対策委員会を積極活用し、営業活動を通じ社内・社外へ環境改善提案・改善活動を推進する。
- 年度改善目標達成に向け、委員会で具体的活動として継続実践する。
- 使用する物品を適時にエコ商品へ切り替える。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--